

## 地域住民が講師をします

開校式は6月11日、村ふれあい交流センターで行われ、「校長」の沼田英雄教育長が「分かること、覚えることの楽しさを感じてください」とあいさつしました。

普代小の2年生5人と3年生2人の女子児童7人が、講師の地域住民3人の指導の下、国語と算数のドリルに挑戦しました。2年生が一けたの足し算と漢字、3年生は2、3けたの足し算と引き算、時計の見方、送り仮名を含む漢字の学習に取り組みました。同スクールの先生は、元小学校教諭の日向律子さん（63歳・旭日区）、野崎茂子さん

## 低学年に基礎を教えます

（45歳・中央区）、長澤富士子さん（51歳・同）の3人が務めます。「みんなが楽しんで

サタデー・スクールは村内全小学校の2・3年生の希望者を対象にしています。本来は1学年下で学ぶ計算や読み書きを復習させ、基礎を定着させることと、分かる喜びを感じることで、学習の習慣付けをすることが目的です。主婦らが講師を務め、教材は村学力向上対策委員会（委員長・荒谷栄子鳥茂渡小学校長）が作成。教室は9時30分

学べ、分かる喜びが実感できる教室にしたいです。毎回、子どもたちの反応を見ながら、工夫してやっていければと思っています」と日向さんは話していました。

## 狙いは学習への意欲高揚

を行ってきました。放課後や週末に子どもたちの多様な活動ができる居場所をつくり、地域社会全体で子どもを育て

ようという狙いです。サタデー・スクールは05年度の新規事業として実施。本年度の事業費は15万円です。

完全学校週5日制が平成14年から始まり、3年が経ちました。学校の学習指導要領が変わったことで授業時間が減り、子どもたちは土・日が休みになりました。ゆとりの中で子どもたちが自然体験やスポーツなどさまざまな体験を通して「生きる力」をはぐくむことが目的だったこの制度も、実施前から学力低下は懸念されていました。

ですが、家庭学習の習慣化は不十分です。学力向上というより学習への意欲を高めるのがサタデー・スクールの狙いです」と話しています。では、子どもたち自身は家庭学習についてどう考えているのか、その実態はどうなのか、次ページでは16年度、小学校高学年から中学生を対象に村生徒指導連絡協議会（会長・沼田英雄教育長）が行ったアンケート結果を見てみます。

同スクールは12月までの第2・4土曜日の各1時間、計13回開かれます。これまで村教育委員会では2004年度に、文部科学省の「地域子ども教室事業」で、自然体験や学童保育的な活動

沼田教育長は「学校の指導方法の改善は図られてきてい

## 参加した子どもたちの声



佐藤 真子さん  
(さとう まこ)  
普代小2年

### 1時間あつという間でした

土曜日はあうちで遊んでいたけど、サタデー・スクールには、お母さんに「行ったら」と言われて参加しました。1時間があつという間で楽しかったです。次も参加したいと思います。



柳澤 海華さん  
(やなぎさわ みか)  
普代小3年

### 土曜日は毎週でもいいです

今まで土曜日は図書室で本を読んだりしていました。サタデー・スクールには、自分から参加しました。問題も簡単でおもしろかったです。土曜日はいつもやってもいいと思います。



澤口 未来さん  
(さわぐち みく)  
普代小3年

### 最後まで参加したいです

サタデー・スクールにはお母さんに言われて参加しました。1・2年のときやった問題だったので思ったより簡単でした。頑張って、最後まで参加したいと思います。